

頭まで続いていた。出合の小滝を除くと滝はなく、集塊岩のナメが断続するだけ。  
12:10明るい伐採地に出た所で遡行終了とする。 (記・)

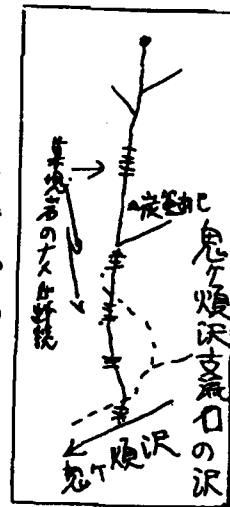
[タイム] イの沢出合(11:35)→終了(12:10)

### 鬼ヶ煩沢支流口の沢

1989年8月12日

口の沢(仮称)は、居伝金部落のはずれで鬼ヶ煩沢と合流している。小さな沢で水量も少ない。しかし、水流が源頭まで続き、そんな中、集塊岩のナメが断続して出現する。滝はかからなかった。遡行開始10:35, 終了11:10。所要時間35分の短い沢登りであった。 (記・)

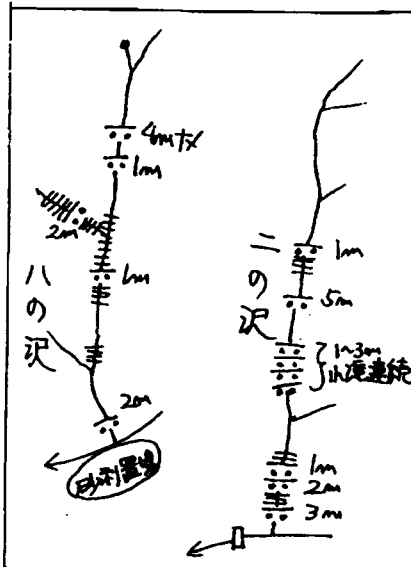
[タイム] 口の沢出合(10:35)→沢終了(11:10)



### 鬼ヶ煩沢支流ハの沢

1989年9月3日

ハの沢(仮称)は、八溝採石の砂利中間ストック場の向いで鬼ヶ煩沢に合流して



いる。8:40遡行開始。小さな沢で、出合すぐに2mの小滝をかけたほかは、細々とした流れが源頭まで続いている。周囲はよく生育した杉林。その中を次第に水量が少なくなってゆく。やがて小さなナメ。そしてそこを過ぎたら、傾斜が急になってきた。ホールドがいっぱいの4mナメ滝を越すと、もう水の流れは極端に乏しくなる。そして沢には倒木が多くなる。右岸上部には五来山林道から派生していると思われる林道が走っている。もうこの辺で良かろうと、9:05遡行終了とし、二の沢(仮称)めざして左岸の樹林帯に入り込む。